



相談室の窓

学生相談室の

12月

利用のすすめ

学生相談室

①キャリアグループ

職業興味テスト（VPI）や、相談室独自のワークシートを通じて、自分の進路・将来を考えていくグループです。みなさんが将来を考えるキッカケになることを願っています。

日時：第6回12月 7日(金) 15:00~19:00

場所：グループカウンセリング室（学生相談室となり）

世話人：学生相談室スタッフ

定員：10名程度（学生相談室にて申し込み。先着順）

*この記事が掲載された時点で、定員を満たしていた場合はご了承ください。



アルコール・パッチテストの報告

理工学部学生相談室

去る、10月24日(水)11時30分から理工学部校舎 6号館 1階ロビーにおいて、今回で10回目となるアルコール・パッチ・テストを保健センター理工学部部分室の協力を得て開催した。設営準備を始めると通りかかる学生達は、早くも張り出されたアルコールに関する掲示を熱心に読んだり、開始時間を確認するなど、アルコール・パッチ・テストに対して強い関心を示す人たちがいて、主催する側としては大変勇気づけられた。エタノールを1~2滴染みこませたパッチ・テスト用絆創膏を上腕の内側に張る列は、当初の予想を越えて盛況だった。

初めての学生にとっては、若干の不安があるようで「どうしたらいいのでしょうか?」「時間がかりますか?」「注射をするの?」「痛いの?」など、様々な問い掛けをしながら列を加わる人もいた。一方、既に何回か経験している(?)らしい学生は、過去の酒飲みの回数によって、体質が変わったのではないかと言いながら受けている人、飲める量を計ってほしいと言いながら受ける人等、いつもと変わらず様々な光景が見受けられた。

受ける目的はそれぞれ違っていても、アルコールに対する自分の体質を理解しておくことは大切なことだと思います。「一気飲み」が体に悪いことは、全ての人が理解しているはずですが、これによって、大事故に発展してしまうことが、後を絶たないのも実態です。

しかし、飲み方によっては、楽しく時間を過ごすことができますし、また、コミュニケーションの潤滑剤として効果があると考えられます。今後、どのようにアルコールと関わっていくかが問題となります。

今回のアルコール・パッチ・テストの受付者総数は239名、そのうち判定者は176名（63名は自己判定者と思われる。）だった。受付の段階でのアンケートによれば、「少しは受け付けるタイプ34.7%」・「受け付けられないタイプ25%」「わからない30.1%」「無回答10.2%」に対し、判定後は「少

しは受け付けるタイプ62.5% (110名) ・ 「受け付けないタイプ35.2% (62名) ・ 「不明2.3% (4名)」 という結果だった。

受付段階の自己判断とパッチ・テスト判定後との関連性については、受付段階では「少しは受け付けるタイプ」と答えのうち82%が「少しは受け付けるタイプ」と判定され、「受け付けないタイプ」と考えのうち65.9%が「受け付けないタイプ」と判定された。また、「わからない」と答えのうち62.3%が「少しは受け付けるタイプ」、「無回答」の66.7%が「少しは受け付けるタイプ」と判定された。

以上のことから、自分が「少しは受け付けるタイプ」か「受け付けないタイプ」かの自己判断とパッチ・テストの判定が、必ずしも一致するとは限りません。自分では飲めるタイプと以为いても、実はそうではない体質もあるようです。アルコールに対しては、常に無理な・無茶な飲み方をせず、楽しく飲むことを心掛けてほしいと思います。

〈受けた学生の感想〉

1. 少しは受け付けるタイプ

- ①初めての検査だったので興味津々だった。自分はまだ飲んだことは無いので、これからはこの結果をもとに酒を(今日)飲みたい。
- ②20歳になるまでに、テストをしていただけでよかった。
- ③今後のために自分の事が知れてとてもよかった。
- ④急性アルコール中毒の問題が出てきている今、こういうことには興味があった。これから酒をのむようになるだろうが気をつけていきたい。
- ⑤今後の自分の酒量を調整できそうで楽しかった。
- ⑥自分でわかっているつもりでも、実際は違うということがよくあるので、今回は確かめられてよかった。
- ⑦アルコール強度が分かったので、今後どう行動すればよいか参考になった。
- ⑧前から自分が強いかわ弱いかわ知りたいと思っている。この結果を信じようと思う。
- ⑨初めてテストしたのでおもしろかった。
- ⑩こういうのをどんどんやってほしい。
- ⑪泥酔しないようにしたいですね。
- ⑫安心した。
- ⑬こんな簡単な方法で判定できるとは思わなかった。
- ⑭普通に酒は飲める方ですが、実際どうなるのか気になっていた。こういった検査は興味がある。
- ⑮自分の反応がみれておもしろかった。

2. 受け付けないタイプ

- ①自分の結果が分かってよかった。
- ②自分の体質を知っておこうと思いやった。
- ③実際にやってみて本当の結果がわかったのでよかった。
- ④試しにやってみたかった。
- ⑤高校時代にもやったことがあるけれど、いつになったら赤くならない日がくるのかなー(苦笑)
- ⑥体質はかわりますか???
- ⑦やってみたかったのでうれしかった。
- ⑧気になっていたの、知りたかった。
- ⑨結果が楽しみでわくわくしている。
- ⑩化学科なので薬品による人体の反応性がおもしろかった。

Current Topics : ネット上のリスクマネジメント

インターネットは、情報収集に便利な上に自ら情報を発信できる大きな魅力がありますが、便利さ楽しさと同時にトラブルが頻発しているのも事実です。「不正アクセス禁止法」が施行され取り締まる動きがでてきていますが、根本的な解決には至っていないようです。

学生相談室にもまだ数は少ないものの、インターネットに関わる相談が寄せられるようになりました。トラブルの内容は大別すると、

- ①料金請求のトラブル
- ②商品の売買のトラブルや悪徳商法
- ③プライバシーの侵害や匿名性を利用した嫌がらせ

になります。特に②や③については、一度トラブルに巻き込まれてしまうと、解決が非常に困難な上に、精神的な苦痛が長く続いてしまうことになります。

それではどのようなことに気をつければよいのでしょうか？

1. 個人情報の管理をきちんとする。

- ・ ID やパスワードの管理を厳重に行う。定期的に変更する。
- ・ ネット上に安易に個人情報を書き込まない。

この2点が原則です。さらに、「アドレスを3種類位(オフィシャル用、プライベート用、その他用など)使い分けて、リスクを分散させる。」「パスワードは意味のない数字の羅列などにして他人にわからないようにする。」などの方法も有効です。

また、ホームページ上に顔写真をのせているのをよく見かけますが、そのデメリットについてもよく考えた上でのせるかどうか判断した方がよいでしょう。

2. 「危険を回避する」という心がけを持つ。

残念ながらインターネットの情報には、正しいものとそうでないものが混ざっています。そしてインターネットの利用者には、匿名性を悪用して、他人に経済的、あるいは精神的な被害を与えようとする人がいるのも現実です。「楽しんで儲かりそうな情報」「必要以上に親切な人」などは、一度疑ってみる必要があるのでは？そして少しでも「怪しい」「おかしい」と感じたら近づかないことが賢明です。

3. 「ネチケット」を守って快適に利用する。

思わぬ所で自分が加害者にならないために、インターネット上のエチケット=「ネチケット」をわきまえておきましょう。「ネチケット」とは、

- ・ 面と向かって言えないことは、メールでも言わない。
- ・ 他人のプライバシーを尊重する。
- ・ 誤解を与えるような書き方をしない。相手を挑発するようなことは書かない。
- ・ ネット上で口論しない。熱くなりすぎた議論はコントロールしましょう。
- ・ 相手の時間や通信回線を浪費させない。

などです。例えネット上であっても、「実生活と同じエチケット」ではありませんか？

4. トラブルに巻き込まれたら

警視庁には、「ハイテク犯罪防止対策総合センター」が組織されていて、相談に応じてくれます。また、学生相談室を訪ねれば、法律的なことについて専門家のアドバイスを受けることができます。(ただしインターネットの世界のトラブルは違法と言い切れないものが多いため、必ずしも司法の介入が有効でない場合があることも覚えておいてください。)